

# 学校関係者評価報告書

実施日

平成 26 年 2 月 18 日 (火)

評 価 ・ 提 言 等

提言等に対する改善策等

1 自己評価の各領域について

(1) 生徒の自己実現

ア 若い世代の基礎学力の低下が大きな問題となっているが、家庭学習時間も3時間40分と全国平均を大きく上回っており、評価できる。学習時間の少ない生徒は、部活動や行事などに取られる時間が長いため仕方がないと思うが、短時間で集中的に取り組める方法を提案して欲しい。

イ SSHに指定されたことで科学に対する意識が高まり、理数教育は高い成果を上げている。研究活動とその成果発表を通じて、プレゼンテーション能力も高まっているようである。昨年度より格段に進歩しているように思うが、今後も取組を続けて欲しい。

ウ きめ細かい指導の中、生徒はそれを窮屈に感じることなく、学校のさまざまな教育活動や指導方針等を高く評価しており、学校生活に満足していることが学校評価アンケート結果に表れている。

(2) 心身健康で豊かな心

ア 皆勤率が高く、生徒ははじめに学校生活を送っている。学校に行く生徒が気持ちよく挨拶してくれ、よく徹底できていると感心している。社会との積極的な関わりが持てるように、世の中の仕組みや世界の有り様などについて認識させ、個人と社会との関わりを自覚させて欲しい。

イ 図書館利用の評価が低いのが、自習室と図書館が分離しているのが要因の一つと思われるので、環境改善を望みたい。図書紹介など、読書啓発の取組はしっかりと行なわれているが、図書館だけが取り組むのではなく、教科指導等においても図書を紹介したり、図書を指定して読ませるなどの方法もある。また、多く本を読んだ生徒を表彰するなど、何らかの工夫が必要である。

(3) 魅力ある特別活動

ア 運動部・文化部ともに活発に活動し、多くの部が全国大会出場を果たすなど、目に見えて成果を上げておりすばらしい。

イ 生徒が大舞台に立つことは、本人だけでなく他の生徒にとっても励みとなり、地域全体の盛り上がりにもつながる。地域に明るいニュースを提供するためにも、いっそうの活躍を期待したい。

2 説明・公表について

市内に中等教育学校があり、小学校に対してもアピールを続けていく必要がある。

3 学校運営について

伝統校として進学面などで結果が求められるが、重要なのは社会に出て通用する人材の育成である。基礎学力・思考力を身に付けさせると評価されるように、教育方針に基づいて将来を見据えた教育を実践して欲しい。

1

(1)

ア 定期的に学習時間調査を行い、学習時間の取り方や生活について助言をしていきたい。また、新入生対象に学習法理解オリエンテーションを実施し、学習方法を確認させたい。

就職・進学ともに早期に目標を設定させ、積極的に学習に取り組めるようにしていきたい。

イ 研究テーマを精選し、生徒が積極的・自主的に取り組めるように指導していきたい。

ウ 年々、多様な生徒が入学するようになっているが、それぞれの生徒が学校生活に満足し、自己実現に向けて取り組めるような環境作りを全職員で目指したい。

(2)

ア 地域との関わりが持てるように、地域ボランティアへの参加を促したい。また、講演会等を充実させたい。

イ 引き続き啓発活動に取り組むとともに、読書コーナーなどを設置して環境作りに努めていきたい。また、芸術科とタイアップした「宇東ギャラリー」等、総合的な芸術空間としての図書館を今後も演出していきたい。

(3)

平成25年度から募集定員が削減となり、部員確保が問題となっているが、特に女子の運動部への加入率を上げる努力をし、来年度も成果を上げていきたい。また、部活動が中心になっている生徒には、もっと学習にも力を入れさせたい。

2

小学校にもSSH研究開発実施報告書等を送付するなどして、今後も小学校での広報活動を続けていきたい。また、小学生等を対象とした自然科学教室等を開き、積極的にアピールしていきたい。

3

職業体験を充実させ、さまざまな職業の方との交流会を開くなどして、生徒に将来に向けての目標を持たせ、その夢が実現できるように、全教職員で努力していきたい。